6.9　元気指導法

6.9.1　数学を読む

みなさんは生徒たちにちゃんと本読みさせていますか？ 例えば，$5-3$ という式を読ませていますか？ 自分は必ず大きな声で全員相手に読ませています。ここで大切なのは項で区切って読むことです。小学生までは必ず $\overset{\text{ごひく，さん}}{5-3}$ と読んでいたのが $\overset{\text{ご，マイナスさん}}{5-3}$ となるのです。これはかなり訓練が必要です。

同様にかっこのはずし方があります。$2(x+2y) = 2x+4y$ という式も $\overset{\text{にエックス，プラスよんワイ}}{2x+4y}$ と読ませています。このように数学の教科書にはかなりの部分で読ませると言うことができていない部分があります。ようするに教師の側でこれくらいできるだろうと感じてしまう指導です。

式は必ず項で区切って読ませる。これは基本中の基本です。一日でできることではありません。3 年生の「式の計算」における $(a+b)(x+y) = ax+ay+bx+by$ においても $\overset{\text{エーエックス，プラスエーワイ，プラスビーエックス，プラスビーワイ}}{ax+ay+bx+by}$ としっかり区切って読ませることが大切です。

6.9.2　アイテム

元気ある授業にするために自分にとって欠かせないアイテムがあります。

みなさん，見たことありますか？ パーティグッズなのでおもちゃ屋さんで売っていると思います。えっ？ 何に使うのかって？ これはですね。一問一答形式の問いで使用します。例えば $a(x+y)$ や $(a+b)(x+y)$ の展開。簡単な正の数・負の数の計算。問題を読みながら答えを生徒が言います。その結果に対して使用するのです。もちろん正解ならばピンポン。不正解ならばブッブッ～を押していきます。テンポある授業で少しでも生徒がうろたえると自分は迷わずブッブッ～を押していきます。これだけは中学生であったらわかって欲しいという教材に対して使用するといいと思います。

6.9.3　教師の姿勢

元気な授業を行うためには教師の姿勢が大切だと感じます。何が大切か…これは一言で言うと

「教師が楽しく数学の授業をしているか？」

だと思います。若い中学生の子供達は敏感です。大人の気持ちにすぐに共鳴を知らず知らずしてしまいます。数学の授業を楽しく自分が行っていればそれを教わっている子供達も楽しく授業を行います。学校の中の仕事で数学の授業が一番楽しければ教師が授業に遅れて行くなんてこともなくなります。先生方の気持ち一つで元気な授業ができるかどうかが決まってくるのです。